

研究代表者氏名	加藤 俊一			研究組織	2人	
所属機関・部局・職	中央大学・理工学部・教授			所属機関所在地	東京都文京区	
研究課題名	実空間における複合感性の動的モデル化とその応用に関する研究					
研究の概要等	<p><u>研究目的</u></p> <p>本研究では、感性の新しいモデル化の枠組みとして、(a) 五感（視覚、聴覚、触覚・力覚、嗅覚、味覚）それぞれのチャネルが相互に作用・影響する感性情報処理過程、および(b) 利用者がおかれた状況とその文脈のもとで、利用者が外界（自分の周りの状況や相手の人間）と相互作用する感性情報処理過程をモデル化する。また、(c) 感性のモデル化に際しては、利用者の日常の行動を継続的に観察し、利用者に動的に五感情報を提示してその反応を分析したりするような、動的なモデル化法を開発する。</p> <p>また、感性モデル化の実証・応用として、(d) 工業製品の外観設計、生活空間の環境設計などを支援するシステムを試作し、感性のモデル化とその利用技術の有効性を評価する。</p> <p><u>研究方法</u></p> <p>このような目標を達成するため本研究では、以下の研究を進める。</p> <p>(1) 複合感性のモデル化と情報処理方式の研究（感性のマルチモーダルな構造のモデル化法と同種・異種感覚間でのイメージ語相互の関係を統合化法）</p> <p>(2) 複合感性のモデル化に適したヒューマンインタフェース構成方式の研究（強化現実空間を利用した状況理解と人間の感性的応答の計測法）</p> <p>(3) 感性的な設計支援方式の研究（多様な属性をもつコンテンツの複合感性検索とこれを利用した感性コーディネート方式）</p>					
当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ）	<p>[1] M. Tada, T. Kato, I. Shinohara: “ Similarity Image Retrieval System Using Hierarchical Classification ”, Proc. of 13th Database and Expert Systems Applications, DEXA 2002, pp.779-788, Sep. (2002).</p> <p>[2]加藤俊一（共著）：“ マルチメディア情報学 8 情報の構造化と検索 ”、第4章 感性によるアプローチ、pp.167-221, 岩波書店, (2000年) 3月.</p>					
研究期間	平成15年度～19年度（5年間）					
研究経費（16年度以降は内約額）	平成15年度 千円 12,600	平成16年度 千円 11,700	平成17年度 千円 12,600	平成18年度 千円 12,200	平成19年度 千円 9,000	合計 千円 58,100
ホームページアドレス	<a href="http://expc2.indsys.chuo-u.ac.jp/">http://expc2.indsys.chuo-u.ac.jp/</a>					